

弓ヶ浜半島は自然の川がないために、十分な灌漑用水を確保することができず、田畑をつくるには不便な土地でした。

そこで、元禄13年（1700）に鳥取藩主の池田綱清は、弓ヶ浜の農業開発を進めるためには、灌漑用水が必要であるという郡奉行の米村広次の考えをとりあげ、米川の工事を命じました。

工事は多くの農民の動員によって3期にわたって行われました。第1期と第2期の工事は米村広次、第3期工事は郡代の安田七左衛門の監督のもとで行われました。

●第1期工事は、日野川を堰き止めて、観音寺村の戸上に取水口を設けて両三柳まで開通しました。

●第2期工事は、享保10～12年（1725～1727）に行われ、大崎まで開通しました。

●第3期工事は、宝暦8年（1758）に行われ、

工事着手から約60年を費やして、境水道まで総延長約20kmが全通しました。これにより、水田4000町歩が新たに開発され、4万石の増収をみました。

「米川」という川の名前は、米村広次の功績をたたえて命名されました。

なお、車尾には、米村広次の功績をたたえて明治25年（1892）に建立された米川紀功之碑があります。

（2013, 9, 29 米子市埋蔵文化財センター 講座資料より）



法勝寺川の取水口



戸上山麓の米川(よねがわ)



米川(よねがわ)源流を抱える集落の戸上(とかみ)